

式 辞

○春の暖かな光を受け、校庭の桜の木には、若葉が芽吹き始めています。季節の移ろいの中で、生命の限りない力を感ずるこの佳き日に、御来賓の

旭城同窓会会長 島田好正（しまだ よしまさ）様

P T A 会長 若林弥加（わかばやし みか）様

のご臨席、並びに、保護者の皆様のご出席をいただき、ここに

第十四回 栃木県立佐野高等学校附属中学校 入学式

並びに

第七十六回 栃木県立佐野高等学校 入学式

を挙行できますことは、本校教職員にとりましても大きな慶びであり、深く感謝し心から御礼申し上げます。

○ただ今、入学を許可いたしました

佐野高等学校附属中学校 新入生 105名の皆さん。

そして、佐野高等学校 新入生 145名の皆さん。

入学おめでとうございます。先ほど名前を呼ばれて返事をする皆さんの元気な声に、これから頑張っていこう、という決意を感じることができ、とても嬉しく思います。

喜びと希望に満ちた皆さんが入学されることを心から歓迎いたします。

また、今日までお子様の成長を支えてこられました保護者の皆様のお喜びもさぞかしでありましょう。心よりお祝い申し上げます。

○本校は明治三十四年に栃木県第四中学校として創設されて以来、多くの卒業生や地域の皆様からの熱い期待と惜しまない支援に支えられ、今年の秋には、創立一二十周年記念式典を開催することとなりました。三万名を超える卒業生は社会の様々な分野で、そして世界の様々な場所で活躍しています。

この長き伝統と「旭城精神」を受け継ぎ、平成二十年には「自他の生命と人権を尊重し、正義と平和を愛する心を持った、『国際人として活躍できる真のリーダー』の育成」を教育目標に掲げ、本県二校目となる県立中学校が開校し、併設型中高一貫教育校としてスタートしました。新しく生まれ変わった男女共学の佐野高校を卒業した一期生の多くは、現在、社会人四年目として、各地で活躍しています。

○皆さんには、本校の歴史と伝統をしつかりと受け止め、本校に入学できた喜びを忘れることなく、「佐高生」「佐附中生」としての責任と自覚を持って中学・高校生活を送って欲しいと考えています。そこで、私から皆さんに望むことを三点、お話ししたいと思います。

○一つ目は「失敗を恐れずチャレンジしよう」ということです。皆さんは、これから、中学生や高校生として、たくさん授業を受け、様々な行事に参加します。部活動に入ってスポーツや文化活動に打ち込む人もたくさんいるでしょう。実は、そこにはたくさんさんのチャレンジがあるのです。学校では、自分の苦手な勉強にも取り組んだり、なかなか結果がでなかつたりすることもあります。

時には、人間関係で嫌なことに直面したりするかもしれませんが。しかし、そういう時こそ、人間が成長するチャンスであり、そこから逃げないことが、チャレンジでもあるのです。チャレンジは特別なことではなく、毎日が小さなチャレンジの連続です。その結果、たとえばうまくいかなかったり、失敗したとしても、落ち込むのではなく、「なんとかなる、きつと大丈夫」と前向きに考えることが大切です。

そうすれば、失敗から学ぶことができ、成長の糧となります。失敗をしない人間はいません。チャレンジと失敗を積み重ねることで、それぞれの目標や希望の実現に近づいていくと思います。

○二つ目は、「人との出会いを大切にしよう」ということです。今ここにいる皆さん一人一人が本当にかげがえのない存在です。附属中の新入生の皆さんは50校の小学校から、高校の新入生の皆さんは19校の中学校から集まってきました。それぞれが生まれも育ちも異なり、様々な地域で異なる経験をしてきた皆さんが、縁あってこの学び舎で出会い、そして、同じスタートラインに立ち、いまスター

トします。お互いがかげがえのない存在であることを忘れず、人の心の痛みがわかる人として、人を大切にし、もちろん自分も大切にしてください。そのふれあいの中で、互いを認め合うことで、みんなに出会えてよかったと心から思える集団をつくってほしいと思います。人との出会いを大切にしてください。

○三つ目は、「気持ちの良い挨拶をしよう」ということです。皆さんは、今日から中学生、高校生として、自立した大人に向けての新たな一歩を踏み出します。そのためには、集団生活の基本である「挨拶をしっかりとる」ことはもちろんですが、実は、挨拶には不思議な力があります。気持ちの良い挨拶は、その瞬間に世界を明るく変えてくれます。

どうしたら、気持ちの良い挨拶になるか、家族や友だち、先生といろいろ試してみてください。最初は勇気のいることかもしれませんが、挨拶は、自分の気持ちや意思を適切に相手に伝える第一歩であり、そこからコミュニケーションが生まれます。また、自分自身を前向きに変えてくれます。気持ちの良い、好印象の挨拶を、ぜひ心がけてください。

○以上の三点を皆さんに望みます。皆さんの周りにはかけがえのない素晴らしい仲間がいます。上級生や卒業生もいます。それぞれ、自分を磨きたい、大きく成長したい、夢を実現させたい、と願っている仲間たちです。ぜひ、この佐野高校、同附属中学校という恵まれた環境の中で、切磋琢磨し、高め合う生徒集団となつて、一人で越えるには難しい壁も、みんなで乗り越えていってほしいと思います。

○ところで、オフィシャル髭ダンディズムの「宿命」という曲があります。夏の高校野球の応援ソングですが、皆さん一人一人への応援ソングでもあると思っています。歌詞の中で、「奇跡じゃなくていい 美しくなくていい 生きがいてやつが光り輝くから」という一節があります。

新型コロナウイルスの影響は今後も続きますが、皆さんが、これからの学校生活の中で、仲間とそう思えるような瞬間を感じることが出来るよう、私たち教職員は全力でサポートします。一緒に頑張りましょう。

○ 最後になりましたが、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。

改めまして、本日はお子様のご入学、本当におめでとうございます。これからの六年間または三年間は、成長と変化が著しいときです。

同時に人生の方向性を定めるとも言える、極めて大切な時期であり、悩み苦しみも多い時期でもあります。わたくし達教職員は、お子様が、自らの生きる道を自らが切り開いていく力を身につけられるよう、全力を尽くして参ります。

○また、お子様の健全な成長をはぐくみ、豊かな個性を育んでいくには、学校と家庭がそれぞれの役割を果たしながらも、互いに補完し合い、連携を密にしていくことが重要であると考えます。どうか、学校の方針をご理解いただき、ご支援とご協力をお願いいたします。

○ 結びに、三年後の卒業式の際、ここにいるすべての入学生、そして保護者の皆様が「本校に入学して本当に良かった」と思えることを心から願ひ、私からの式辞といたします。

令和三年四月七日

栃木県立佐野高等学校

栃木県立佐野高等学校附属中学校

校長 青柳 育夫